



漢方薬

がん治療の3本柱といえ
ば、①手術②放射線③抗がん剤と分子標的薬だ。いずれもがんの根治を目指す西洋医学の治療法だが、治療自体による肉体的負担や障害などから脱落する患者も少なくない。

「そんなとき、頼りになるのが漢方薬です。がん治療の主役にはなれませんが、脇役として体力や免疫力の

がん治療

最前線

連載15

渡辺 賢治准教授 漢方医学
漢方センター

慶応義塾大学病院(東京・新宿区)

がん治療の浅い脇役

増強をはじめ、症状の改善や生活の質(QOL)の向上に寄与し、がん患者さんを強力に支えることができるのです」

こう言うのは、わが国の漢方医学をリードする渡辺賢治准教授だ。

「事実、大腸がんなどに投与されるイリノテカンという抗がん剤は、しばしばひどい下痢を招き、治療の中断に追い込まれる患者さんが少なくありません。しか



し、半夏瀉心湯という漢方の服用で下痢が軽減・抑えられることあります」

「がんの漢方治療の基本となるのは十全大補湯、補中益気湯、人参養榮湯の3つの補剤だ。

「手術などを受けた後の患者さんの体力や気力を増強させるという

させ、免疫力の向上を図ること、がんの再発の防止に役立つ「あえて言

「漢方薬は植物や鉱物、動物などの成分。生薬が複数さまざまに組み合わせられた合剤です。つまり複数の生薬がそれぞれ複数の効果を発揮し、総じて包括的な治療効果を得るところに大きな特徴があります」

るリンゴ酸ナトリウム。白血球減少を抑えるのは他の生薬に負っています」

治療自体による障害や副作用の軽減が可能!

生薬同士の相乗効果や相殺効果によって包括的な治療効果が得られるのが漢方の特徴だ。

「当院では、がん患者さんに対しては、生薬を自ら組み合わせた煎じ薬の漢方薬を用いることも多い」

がん患者の症状は多彩で、健康保険が適用される148種類のエキス剤漢方薬(濃縮乾燥粉末薬)では不十分な場合もあるからだ。

「生薬は200種類前後に及び、その組み合わせ方は天文学的な数にのぼります。煎じ薬を使うことで、よりきめ細かに、患者さんの状態に応じた漢方薬の処方ができるのです」

あきらめない医療、逃げない医療が漢方医学なのである。